

7月29日に実施された『政府大規模地震時医療活動訓練』に、本院も参加しました。

南海トラフ断層帯を震源とする海溝型地震が発生し、兵庫県南部を中心に全域に甚大な被害が発生したと想定した訓練でした。

トリアージポストで、救急車で次々と運び込まれ模擬患者をトリアージし、緑・黄・赤・黒エリアに搬送します。それぞれのエリアで医師が再トリアージし、要請した香川県のDMATの協力を得ながら緊急性の高い模擬患者から検査や治療に当たりました。

大きなトラブルなく訓練は終了しましたが、実際の災害では情報の混乱や人員の確保等スムーズに進まないことがあると考えられます。災害時にどのように行動するのか職員一人ひとりが考え行動できるように、日頃からの備えや訓練が大切と実感しました。



看護部次長 高田としみ